

## 2021 年度鬼北町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、農林業を中心に発展し、水田に占める主食用米作付面積の割合が約70%で、転作作物は野菜・果樹が多い。平坦地域と中山間地域に分かれており、平坦地域では水稲、野菜が主な作物であるが、中山間地域では、柚子、栗、野菜が主な作物となっている。販路は、町内の2つの道の駅と農協への出荷が主であり、地域内での消費が多い。最近では町外の和菓子メーカーと連携協定を結び、町内の栗を出荷しており、今後は加工用米等の出荷も増やしていく予定である。

近年では農家の高齢化や兼業化の進行が著しく、小規模農家が多いため、担い手への土地の集積を進めているところである。平坦地域では土地の借り手もあり、水稲作付が可能であるが、中山間地域では条件不利地が多く、土地の借り手がなくて、農家数の減少や将来の担い手不足による荒廃農地の増加が深刻化している状況である。こうした中、水稲作付面積の維持が課題となっている。

また中山間地域を中心に、サル、シカ、イノシシ等の鳥獣害による農作物の被害も多く、防護柵の設置も進めているが、まだまだ十分とはいえず、高齢化による狩猟者数の減少もあり、鳥獣害の被害が増加していることも荒廃農地の増加の一因となっている。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

現在、当町においては農家の高齢化や兼業化の進行が著しく、水田の自己保全管理等の荒廃農地が増加しつつある。そのような中で、担い手農家を中心に農地集積を行いながら、農地を適切に管理していく必要がある。JAの推奨作物及び当町の振興作物10品目の推進を行いながら、町内農家の大半が出荷・販売を行っている2つの道の駅への出荷の増加を促す。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

現在、管内で畑地化は行っていない。中山間地域における荒廃農地を増やさないために、担い手農家を中心に農地集積を行い、当町の振興品目である「栗」・「柚子」を作付けを行いながら畑地化の促進を図る。

### 4 作物ごとの取組方針等

町内の約895ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### (1) 主食用米

コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ、にこまるが主であり、平坦地域を中心にコシヒカリの早期栽培を実施している。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

令和元年度より始まった県育成米「ひめの凜」の生産・販売の拡大を促進する。

## (2) 非主食用米

### ア 飼料用米

町内特産品のキジを飼育するキジ農家で、キジへの飼料として飼料用米を混ぜて給餌している。また、全農を通じての取組も推進している。主食用米からの転作を進めながら、担い手への土地の集積も進めて作付けを拡大していく。

### イ WCS 用稲

町内畜産農家からの需要がある。主食用米からの転作を進めながら、担い手への土地の集積も進め、作付けを拡大していく。

### ウ 加工用米

県内冷凍食品メーカーへの供給として取組が出てきており、今後も主食用米からの転作を進めながら作付けを拡大していく。

## (3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆に関しては、生産性が低く取組は少ないが、適期播種により生産性向上を図り、現行の作付面積を維持する。

飼料作物に関しては、町内の畜産農家用の飼料として、取り組んでいる。主食用米からの転作を進めながら、担い手への土地の集積も進めて、作付けを拡大していく。

## (4) そば、なたね

そばは、生産量は少なく個人消費が多いが、転作として農地を保全していくためにも重要であり、現行の作付面積を維持する。

なたねは作付環境が当町に適していないので、取組を行っていない。

## (5) 高収益作物

### ① 野菜

町内では様々な種類の野菜の作付けを行っているが、小規模農家が多く、また多品種少量の生産のため販売コストもかかる。中山間地域や条件不利地では、稲の作付けに不向きな場所もあり、転作作物として農地を保全していくためにも重要である。販売手数料や包装等のコストの一部を支援することで農家所得の向上を図るとともに生産量の維持・拡大を図る。

また、野菜の中でも以下の10品目については、地域振興作物として作付けを推進していく。

#### ・果菜類

果菜類の中で、「きゅうり」、「なす」、「ピーマン」、「ホオズキ」は、地域で振興している作物であり、主食用米からの転作を進めながら、担い手への土地の集積も進めて、作付けを拡大していく。特に「ホオズキ」については町の取組みとして作付けを推進しており今後需要が見込まれている。

#### ・葉茎菜類

葉茎菜類の中で、「アスパラガス」、「ナバナ」、「ホウレンソウ」、「キャベツ」、「ブロッコリー」は地域で振興している作物であり、主食用米からの転作を進めながら担い手への土地の集積も進めて、作付けを拡大していく。「キャベツ」、「ブロッコリー」については、県内において十分な需要が見込まれる。

・イモ類

イモ類の中で、「さといも」は県内において十分な需要が見込まれる。主食用米からの転作を進めて作付けを拡大していく。

② 果樹類

「柚子」、「栗」の生産が主であり、振興品目として作付けを拡大していく。

「柚子」は地元の醸造所を中心に利用されている。「栗」は町外和菓子メーカーとの取り組みを進めている。これらの取り組みによって不作付地等への新植や改植を進め、作付けを拡大するとともに、出荷量を増加させていく。転作を推進しているが果樹への転作にあたっては新植後、果樹として出荷できるまでの数年の間は、その農地において収入を得られない状態となり、除草や施肥などコストだけがかかる状態となる。このためコストの一部を新植2年目からの3年間の間補助することにより果樹への転作を促しておく。

**5 作物ごとの作付予定面積等**

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	513.8	510	510
飼料用米	18.8	19.0	20.0
WCS用稲	11.2	14.0	15.0
加工用米	5.3	5.3	6.0
大豆	0	0	0.5
飼料作物	7.2	7.5	8.0
・子実用とうもろこし	0	0	0
高収益作物	133.5	133.8	135.9
・野菜	68.8	69.0	70.0
・花き・花木	0.9	0.9	0.9
・果樹	62.9	63.0	64.0
・その他の高収益作物	0.9	0.9	1.0

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 WCS用稲 飼料作物	農地集積による飼料 への加算	作付面積	(2020年度) 3564a	(2021年度) 3600a
2	飼料用米 WCS用稲 飼料作物	担い手による飼料へ の加算	作付面積	(2020年度) 3331a	(2021年度) 3350a
3	きゅうり、なす、 ピーマン、アスパ ラガス、ナバナ、 ほうれん草、キャ ベツ、さといも、 ブロッコリー、ホ オズキ（基幹作 物）	地域振興作物への加算	作付面積	(2020年度) 1403a	(2021年度) 1450a
4	きゅうり、なす、 ピーマン、アスパ ラガス、ナバナ、 ほうれん草、キャ ベツ、さといも、 ブロッコリー、ホ オズキ（基幹作 物）	担い手による地域振 興作物への加算	作付面積	(2020年度) 1038a	(2021年度) 1040a
5	野菜（基幹作物が 対象）	野菜販売に対する助成	作付面積	(2020年度) 2579a	(2021年度) 2650a
6	果樹（新植2～4 年目までが対象）	果樹新植に対する助成	作付面積	(2020年度) 259a	(2021年度) 260a
7	飼料作物 （二毛作）	飼料作物の二毛作助成	作付面積	(2020年度) 281a	(2021年度) 290a
8	飼料用米 WCS用稲 加工用米	湛水直播栽培技術導 入による新規需要米 取組みに対する助成	作付面積	(2020年度) 1351a	(2021年度) 1360a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。